

- ✓ バリアフリー建材カタログVol.23 発刊!
- ✓ H.C.R.2025 出展します!
- ✓ 理学療法士からみた手すりハ
- ✓ ちょっと気になるサステナビリティ etc...

バリアフリー建材カタログ 2025→2026 Vol.23 発刊!

今号も絵本作家のたなか しん先生に表紙を描き下ろしていただきました。
今年と来年の干支は「巳(み・へび)」と「午(うま)」。思わずコレクションしたくなる、バリアフリー
建材カタログ恒例となった「まるで絵本のような表紙」を、今回もぜひお楽しみください!

今年の表紙は
巳&午

BAUHAUS
FreeRrail
フリーレール



オフセット
ブラケット



L自在
ジョイント



I型
ロング
ハンド

新商品も多数掲載!

BAUHAUS
Select Series



35アッシュ丸棒
ブラック

35S自在ジョイント
ブラック

たよレールシリーズ
SOTOE
Indoor
たよレールソートエンドア



highタイプ



自在ブラケット

BAUHAUS
AQUA rail

自在ソケット



STRAIGHT **EZ** RAIL
ストレート イージー レール



H.C.R.2025 出展します!

10月8日(水)~10日(金) 10:00~17:00(最終日は16:00まで)

東京ビッグサイト 西・南展示ホール 小間番号 南3ホール S-5054

皆様のご来場をお待ちしています

Web展も開催中! ~11月7日(金)まで H.C.R.2025Webサイト 特設サイト内

第52回 国際福祉機器展&フォーラム



新商品など
多数展示
予定



“たよレールUPDATE”で準備をしてから立ち上がる

立ち上がり動作で使うのは縦手すりと横手すりどちらでしょうか？高齢者に安全な立ち上がり動作を促し自立を支援するためには“たよレールUPDATE”のように低く設定できる横手すりをお勧めします。立ち上がり動作パターンの違いから、縦手すりと横手すりの役割の違いを考えてみました。

立ち上がり動作は勢いをつけて立ち上がるパターン（運動量戦略）と、立ち上がる準備をして安定を図ってから立ち上がるパターン（安定戦略）があるといわれています。一般的には勢いをつけて立ち上がることが多く、勢いをつけて身体重心を前方へ移動させて足部の支持基底面（支える面）に入ると同時に身体重心を上方へ持ち上げます。この勢いをつけた立ち上がり動作パターンでは、前方への重心移動と上方への重心移動が1つの動作で完結されます。しかし、高齢になると股関節や膝関節の可動域が狭くなったり筋力が低下することで、勢いをつけても身体重心を前方へ移動させられず後方へ残ったままの立ち上がり動作となり失敗してドスンと尻もちをつくことが多くあります。勢いが不十分で身体重心が後方へ残ったとき、ドスンと尻もちをつかないように人は縦手すりにぶら下がりたくなります。ドスンと尻もちを繰り返すと圧迫骨折に繋がります。この尻もちを社会課題として捉えて、高齢者の立ち上がり動作を見直した結果“たよレールUPDATE”が出来上がりました。

“たよレールUPDATE”を使った立ち上がり動作では、身体重心を前方へ移動する準備動作と身体重心を上方へ押し上げる立ち上がり動作を別々の2つの動作として捉えました。まず立ち上がる準備動作として、体幹を前傾前屈することで身体重心を前方へ移動させ足部の支持基底面に収めます。このとき身体が前へ転げ落ちないように、低く設定した“たよレールUPDATE”で支えてください。次の動作として低い横手すりを鉛直床方向へ押すことで、足だけでなく手の力も使って身体重心を上方へ押し上げて立

ち上がります。高齢者の立ち上がり動作では、身体重心を前方へ移動する準備動作と自分の手足の力を使って身体重心を押し上げる立ち上がり動作を2つの動作に分けることが安全な立ち上がりを促すことになります。

ただし、安全に立ち上がる方法を知っていても勢いをつけて立ち上がりたい場合があるのもわかります。例えばベッドやソファなど、座っている座面が低い場合です。そんなときは手すりだけでは解決できないため、座面の高さを50cmくらいに上げて前傾姿勢を取りやすくしてください。深く前傾前屈しなくても立ち上がる準備動作ができるため、横手すりでも身体を押し上げやすくなります。全てを手すりだけで解決できるわけではありませんが、安全な立ち上がり動作を支援できるように“たよレールUPDATE”を使ってみてください。



勢いをつけて立ち上がるパターン
①身体重心の前方移動と上方移動を一連の流れで行う



安定を図ってから立ち上がるパターン
①立ち上がる準備動作:身体重心の前方移動
②立ち上がり動作:身体重心を上方へ押し上げる

参考文献

1)石井慎一郎,動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践,MEDICALVIEW,(2013)

ちょっと気になる

サステナビリティ 9

「カーボンフットプリント(CFP)」という言葉を目にする機会が増えたのではないのでしょうか。これは、製品やサービスが原材料の調達から廃棄・リサイクルされるまでの全段階で排出する温室効果ガスの量をCO₂に換算して示す、「CO₂の足跡」「CO₂の成分表示」ともいえる指標です。実はマツ六でも地球環境への貢献を目指し、簡易なCFPの算定に挑戦した経験があります。

弊社は、介護保険で使われるリフォーム用の手すりや、レンタル用の据置式手すりを開発・提供するメーカーですが、自社で工場を持たないため、製品1つあたりのCO₂排出量を計算するには、環境省が公表している「原単位(加工された素材のgあたりの平均CO₂)」や、一般的な「輸送シナリオ(何tトラックが何km走るといった仮定)」を当てはめていく必要があります。しかし、Scope 1,2といった組織算定とは異なり、CFPには大きな壁がいくつかあります。

例えば、製品の製造を委託している工場の実際のエネルギー使用量は把握できていません。また、主力であるレンタル手すりは、複数のお客様のもと

This month's theme

カーボンフットプリントに挑戦して見えた課題

へ何度も運ばれますが、その複雑な運搬シナリオをどう想定し、計算に組み込むべきか、答えが出ていません。

業界として統一された算定フォーマットがあれば道筋が見えるのですが、現時点では一部の自動車業界や家電業界などに限られているのが実情です。

近年、企業活動のサプライチェーン全体におけるCO₂排出量、いわゆる「Scope 3」への対応が強く求められており、その鍵を握るのがCFPです。

現時点では、弊社もScope 3やCFP算定結果の公開を行っていませんが、今後も試行錯誤を続け、環境負荷低減に貢献できる方法を模索してまいります。

